

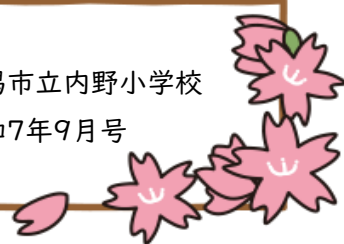


やさしさあふれる さくら学校

さくらだより

新潟市立内野小学校

令和7年9月号



3つのC

校長 山田 里恵子

夏休み明けの全校朝会では、夏の全国高等学校野球選手権大会でベスト4になった県立岐阜商業高校の横山温大選手を取り上げました。

横山選手は、生まれた時から左手の指がありません。でも、野球をやりたいという目標をもち、小さい頃から努力を続けてきました。小学校5年生までは、義手でグラブをはめていました。しかし、ボールをキャッチすることが難しく、義手を付けての野球を諦めました。それでも野球をやりたいと努力を続けました。

そこで、右手にグラブをはめてボールをキャッチした後、左脇でグラブを抱え、右手でボールを投げることにしました。ボールをキャッチしてから1秒で投げることを目標に練習し、キャッチしてから素早く投げるができるようになりました。できるまでに1年以上かかったそうです。甲子園では、流れるような美しいフォームに、たくさんの歓声が上がりました。

もう一つは、打撃です。右手だけでバットを握り、左手は添えるだけです。最初は、右手だけでバットを振ることが難しく、打球を強く打てませんでした。だから、右腕を徹底的に鍛えました。その結果、右腕は、左腕より一回り大きくなりました。そして、1年で打撃の速度が10キロ以上速くなりました。

残念ながら準決勝で敗れてしまいましたが、甲子園に出るという大きな夢をかなえ、大活躍する姿は、多くの人の感動を呼びました。甲子園を終えた横山選手は、「手が不自由でもハンデだと思ったことはない。逆に武器にしている」「左手が不自由な分は右手で補う」「自分と同じように、ハンデを背負っている子どもたちに勇気を与えたい」と話しました。プロ野球に行くという新たな目標をもち、挑戦が続いています。

横山選手の前向きな姿勢と努力し続ける姿は、チームの「いい風」をつくりました。

上記の話を受けて、「3つのC」の話をしました。それは、**Chance**（チャンス）、**Challenge**（チャレンジ）**Change**（チェンジ）です。

Chance（チャンス）

自分の成長に
つながるチャンスを
しっかりつかもう！

Challenge（チャレンジ）

失敗をおそれず
どんなことにも積極的に
挑戦しよう！

Change（チェンジ）

よりよい自分になろう！

皆さんの周りには、大きく成長するための **Chance**（チャンス）がたくさんあります。それを掴むのも大切な力です。学校、地域では、成長につながるたくさんの **Chance**（チャンス）を用意しています。自分の成長につながる **Chance**（チャンス）をしっかり掴みましょう。

失敗は成功のもと。失敗しても、取り組んだ過程は、必ず自分の力になります。失敗をおそれず、何事にも積極的に **Challenge**（チャレンジ）しましょう。

Chance（チャンス）を掴み、**Challenge**（チャレンジ）することで、よりよい自分に **Change**（チェンジ）することができます。目標に向かって挑戦し続けることが、みなさんの成長と「やさしさあふれる さくら学校」の実現につながります。「3つのC」を大切に、みんなで頑張っていきましょう。

内野小学校は、いろいろな人とかわりながら課題を解決する力を育む教育活動を大切にしています。学校行事や児童会行事、異学年交流なども大きく成長する機会とし、子どもの成長を支えたいと考えています。

＜内野まつりに参加しました～4年生～＞

4年生は、総合的な学習の時間で、地域が大切に守ってきた内野まつりについて学習しました。地域の方からお話を聞いたり、調べたりしました。学習を通して、子どもたちは、内野には優しい人がたくさんいて、とても過ごしやすい街であることを実感し、内野の魅力を広めたいという思いをもちました。そして、内野をもっと活気付け、歴史を守るために自分たちにできることとして、内野まつりに参加し、盛り上げることにしました。主な取組は、『子ども広場』と『民謡流し』です。

『子ども広場』では、「魚釣り」「ストップウォッチ」「輪投げ」「宝探し」「くじ引き」「射的」「的当て」「モーリング」「ビンゴ」など、大人も子どもも楽しめる遊びを考えました。また、まちづくりセンターの1階をお借りし、盆踊りを計画しました。

『民謡流し』では、地域の方から踊りを教えていただき、一生懸命練習しました。また、オリジナルの山車作りにも挑戦しました。

たくさんの人に参加してほしいと、チラシ作りにも取り組みました。タブレット端末を活用し、とても素敵なチラシができました(写真は1例です)。



内野まつり当日、日中の『子ども広場』にはたくさんの方々が訪れ、遊びを楽しんだり、まちづくりセンターで山車を囲んで盆踊りを踊ったりしました。夜の『民謡流し』では、オリジナルの山車に灯りをともし、地域の一員として参加しました。たくさんの地域、保護者の方々が応援に来てくださり、一緒に楽しく踊りました。

内野をもっと活気付けたい、歴史を守りたいと考え、行動したことで、子どもたちは、「内野まつりを盛り上げることができた」「地域の皆さんが喜んでくれた」ことを実感することができました。学校だけでなく地域にも「いい風」をつくったと言えます。

そして、来年の4年生にも取組を引き継ぎたい、下学年にも、内野まつりについて知ってほしいという願いをもちました。

＜なかよしウォークで素敵なかかわりが見られました＞

9月26日(金)に、なかよしウォークを実施しました。ねらいは、「なかよし班で長い距離を歩き通す中で、互いに思いやりをもって励まし合い、助け合うといった『かかわる力』の育成」「地域を学び、より地域を知ること」の2点です。地域を学ぶ課題に取り組みながら班で歩くウォークラリーにシフトして3年目になります。高学年がリーダーシップを発揮し準備を進めてくれました。

出発式では、『話をよく聞く』『周りを見て行動する』『優しく声を掛ける』『困っている人を助ける』などよりよくかかわることで、『やさしさあふれる なかよしウォーク』にしましょうと、子どもたちに伝えました。

当日、6年生は、班の様子を見ながら優しく声を掛ける姿がありました。5年生は、6年生を上手にサポートしたり、帰校後の班の遊びを進行したりしました。下学年は、上学年の話を聞き、最後まで歩き通しました。

約60名の保護者、地域、大学生のボランティアの皆様が参加してくださいました。温かく見守り、安全と、かかわりを支えていただき、本当に感謝しています。

集団生活を通し、よりよい人間関係を築く力、周りを見て行動する力、自分、相手、周りにとってよりよい行動を選択する力を身に付けていくことが大切です。「こんな行動をしたら人の助けになった」「声を掛けてもらって嬉しかった」という経験が、「次も頑張りたい」「誰かの力になりたい」という行動力に繋がります。高学年が優しく声を掛け、リードし、励ます姿、まさに「いい風」をつくりました。

